

A

[18] 次の文章は『大鏡』の一節で、左大臣藤原時平（この殿）に関するエピソードである。これを読んで、後の問いに答えよ。

延喜(注1)の、世間の作法(注2)したためさせ給ひしかど、過差(注3)をばえしづめさせ給はざりしに、この殿の、制をやぶりたる御装束の、事のほかに、めでたきをして、内にbまゐり給ひて、殿上cに候はせ給ふを、みかどこじとみより御覧じて、御気色2いとあしくならせ給ひて、職事(注4)を召して、「世間の過差の制きびしきころ、左の大臣おとどの、一人といひながら、美麗ことのほかにてまゐれる、便3なき事なり。はやくまかり出づべきよしおほせよ」と仰せられければ、うけたまはる職事aは、「いかなる事にか」とおそれ思ひけれど、まゐりて、わななくわななくしかじかと申しければ、いみじくおどろきかしこまり、うけたまはりて、御隨身のみさきまゐるも制し給ひていそぎまかり出で給へば、御前(注5)どもあやしと思ひけり。さて、本院(注6)の御門みかど一月ばかりささせて、御簾みすの外とにも出で給はず、人などまゐるにも、「勘当のおもければ」とて、あはせ給はざりしにこそ、世の過差はたひらぎたりしか。内々によくうけたまはりしかば、さてばかりぞしづまらむとて、みかど4と御心あはせさせ給へりけるとぞ。

〔出典〕

『大鏡』

〔重要語句〕

- したたむ
- えく打消
- めでたし
- 気色
- いと
- あし
- 便なし
- よし（由）
- おほす
- いかなり
- しかじか
- いみじ
- おどろく
- かしこまる
- あやし
- 勘当
- さて

〔敬語動詞〕

- 給ふ
- まゐる

(注) 1 延喜——醍醐天皇のこと。

2 作法——風俗習慣。

3 過差——贅沢。

4 職事——藏人の頭、及び、五、六位の藏人。

5 御前ども——ここでは先払いをする者たちのこと。

6 本院——藤原時平の邸。

問一 二重傍線部 a～e の敬語の説明として最も適当なものを、次のア～カの中からそれぞれ一

つずつ選べ。ただし、同じ記号を何度選んでもよい。

ア 尊敬の動詞 イ 尊敬の補助動詞 ウ 謙讓の動詞 エ 謙讓の補助動詞

オ 丁寧の動詞 カ 丁寧の補助動詞

a					
b					
c					
d					
e					

問二 波線部 A～E の敬意の対象として最も適当なものを、次のア～オから一つずつ選べ。ただ

し、同じ記号を何度選んでもよい。

ア 醍醐天皇 イ 藤原時平 ウ 職事 エ 御隨身 オ 人

A					
B					
C					
D					
E					

○ 候ふ

○ 御覽ず

○ 召す

○ まかる

○ 仰す

○ うけたまはる

○ 申す

〔古典常識〕

○ 延喜

○ 過差

○ 殿

○ 内

○ 殿上

○ みかど

○ 小部

○ 職事

○ 左の大臣

○ 一の人

○ 御隨身

○ みさきまゐる

○ 御前

○ 御簾

問三 傍線部1「めでたき」・3「便なき」の意味として最も適当なものを、次の各群のア～オの中からそれぞれ一つずつ選べ。

1「めでたき」

ア 地味な イ めったにない ウ すばらしい

エ みすばらしい オ 祝うべき

3「便なき」

ア 気の毒な イ 並一通りの ウ 格別な エ 不都合な オ 不便な

1		3	
---	--	---	--

問四 傍線部2「御気色いとあしくならせ給ひて」のような状態になったのはなぜか。その理由

として最も適当なものを次のア～オの中から一つ選べ。

ア 左大臣である時平が、天皇の許可もないのに殿上の間に伺候していたから。

イ 時平が、左大臣でありながら、禁制を無視するような派手な装束で参内したから。

ウ 贅沢を禁じた天皇が、自ら手本となるべく地味な装束をする必要があったから。

エ 贅沢を禁じていたのに、左大臣を筆頭に殿上人たちが宴を楽しんでいたから。

オ 贅沢を禁じた天皇が小窓から覗き見ると、殿上人がみな派手な装束で参上していたから。



問五 傍線部4「みかどと御心あはせさせ給へりける」から読み取れる藤原時平の人物像として

最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選べ。

ア 勇ましく反骨心のある人物 イ 策をめぐらすのが上手な人物

ウ 派手好みできょうしゃ驕奢な人物 エ 権力にこびへつらう人物

オ 素直で忠誠心の強い人物

